



シェル美術賞展 2014 ご招待券

本冊子をお持ちの方は、お連れ様も含め無料でご入場いただけます

シェル美術賞は、現代美術を担う将来性のある若手作家（40歳以下）の発掘を目的とする1956年創設の伝統ある賞で、「若手作家の登竜門」と評価されています。

展覧会では、応募作品の中から厳正な審査により選ばれた受賞・入選作品を展示いたします。また、本年より「オーディエンス賞」を設け、展覧会に来場されたお客様の投票によって展示作品の中から選出を予定しています。

株主の皆様のお越しをお待ちしております。

*詳しくはシェル美術賞事務局へお問い合わせください。

TEL : 03-5225-0502

シェル美術賞公式WEBサイト
<http://www.showa-shell.co.jp/art/>

シェル美術賞展2014

会 期

2014年12月10日(水)
～12月23日(火・祝)

10:00～18:00(入場は17:30まで)

金曜日～20:00(入場は19:30まで)

最終日～16:00(入場は15:30まで)

12月16日(火) 休館

会 場

国立新美術館 展示室1B(東京・六本木)

■株式についてのご案内

期末配当基準日 毎年12月31日

中間配当基準日 毎年6月30日

定時株主総会 毎年3月

公 告 方 法 電子公告 当社のホームページに掲載いたします。
(<http://www.showa-shell.co.jp/koukoku/>)

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (0120) 782-031 (フリーダイヤル)

特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (0120) 288-324 (フリーダイヤル)

上 場 取 引 所 東京証券取引所

証 券 コ ー ド 5002

⇒ 株主アンケートにご協力ください

当社では株主の皆様からのご意見を経営に活かし、IR情報の充実を図るため「株主アンケート」を実施しています。お手数ではございますが、同封の「株主アンケート」にご協力いただきたくお願い申し上げます。

(ホームページからのご回答も可能です。方法はアンケートハガキをご覧ください。)

※ご回答いただいた内容は、当社の「個人情報保護に関する基本方針」に基づき、適切に管理いたします。

ずっと走ろう。シェルと走ろう。
昭和シェル石油
<http://www.showa-shell.co.jp/>

〒135-8074
東京都港区台場2丁目3番2号
台場フロンティアビル



株主のみなさまへ

第103期 中間報告書

平成26年1月1日～平成26年6月30日



ずっと走ろう。シェルと走ろう。

昭和シェル石油





変革精神を持ち、行動を起こし、 価値あるエネルギーを 社会に提供できる会社を目指して

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。

当社第103期中間報告書をお届けするにあたり、
ご挨拶申し上げます。

平成26年9月

代表取締役会長 グループCEO

香藤 繁 郎

■上半期の業績について

当第2四半期累計期間（1-6月）の連結業績は、売上高1兆5,400億円、（前年同期比1,241億円増収）、経常利益173億円（同266億円減益）、純利益140億円（同160億円減益）、たな卸資産評価の影響を除いた場合の経常利益相当額は129億円（同99億円減益）となりました。

石油事業は、特に1-3月において原油価格や為替のコスト変動を合理的に市場価格へ反映できなかったためにマージンが圧縮され、前年同期比で大きく減益となりました。3月末に「高度化法」*に対応した業界全体の精製能力削減等を背景に需給が改善したこと、コスト変動をより適切に反映する卸価格体系に変更したこと等によって4月以降は収益が改善しました。

エネルギーソリューション事業は計画通り前年同期比で増益となりました。太陽電池事業においては、より収益性の高い国内販売への注力と生産コストの低減が計画通り順調に進み、電力事業においては、発電所が安定的かつ効率的に稼働するとともに従来から取り組んできた販売チャネル多様化の成果も表れてきています。

■上半期における「中期経営アクションプラン」の進捗

石油事業においては、新しい収益機会としてアジアで需要増が見込まれる石油化学事業の拡大に取り組んでおり、ミックスキシレン等の芳香族を増産する不均化装置を四日市製油所に建設することを決定しました。また、12年ぶりとなる新ハイオクガソリン「Shell V-Power」の7月発売に向けて準備を進めました。SSリテール分野ではこれまでも「Ponta」や「Shell EasyPay」等のサービス差別化に取り組んできましたが、従来からの潤滑油等の分野に加え、燃料油の分野でも製品差別化に取り組むことで顧客基盤をさらに拡大し、強固にしていまいります。加えて、昨年から3年間を期限に取り組んでいる構造的コスト競争力改善活動についても、期間目標である260億円に対し、開始から1.5年で213億円と順調に成果を出す一方、成長に結びつく活動についても積極的に取り組んでいます。

太陽電池事業においては、足元では国内市場への販売を強化する一方で、将来の世界市場への

*「高度化法」についての詳細はP9をご覧ください。

本格進出に向けて準備を進めています。当社100%子会社であるソーラーフロンティアは、CIS薄膜太陽電池の新技术を導入し将来の海外工場のモデルと位置付ける「東北工場」の建設を進める傍ら、2014年4月には、ニューヨーク州立大学とCIS薄膜太陽電池の共同研究開発/生産を行う可能性に関する予備調査について合意する等、中長期的な事業戦略に基づいて着々と布石を打っています。

電力事業においては、既に投資決定したバイオマス発電所および「扇島パワーステーション」3号機の建設を計画通り進めるとともに、遊休地を利用して建設を進めてきた複数の太陽光発電所が順次稼働を開始しています。自社発電所の規模拡大および多様化を進め、収益基盤の強化を図っています。

■業界環境と当社の戦略方向性

石油事業に関しては、今後も国内需要の減少が続き、将来的には再び供給過剰となる見込みであることから、経済産業省は高度化法の告示改定に加え、石油精製業界を産業競争力強化法の適用産業とし、同業界ではさらなる精製能力削減や業界再編が求められる状況になりつつあります。これまでも他社に先んじて精製能力の合理化・効率化に取り組んできた当社としては、この動きを受動的に捉えるのではなく、能動的に活用することで当社の競争力をさらに強化するチャンスとして捉え取り組んでまいります。当社は「中期経営アクションプラン」において、国内No.1の収益性の確立を目指しています。現在進めている他社との協業もその実現のための戦略の一つであり、将来的に業界再編が必要になった場合でも主導権を確保すべく取り組んでいく所存です。

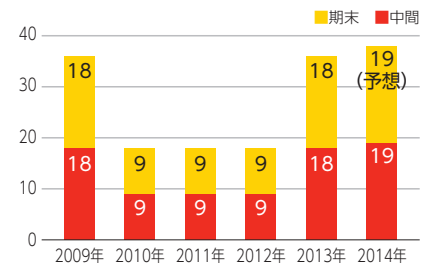
太陽電池事業に関しては、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」によって太陽電池の国内需要が急速に拡大している一方、その急速さから消費者の電力料金負担の急増が危惧され、太陽光発電による電力買取価格等の制度見直しへの要請が高まりつつあります。ソーラーフロンティアは独自の技術革新に基づく太陽光発電システムコスト低減を強力に推進し、市場における競争力確保とともに補助金がなくとも需要を生みだせる経済性の高い製品を提供することで、国内市場のみならず世界市場でも成長できる企業となることを目指しています。

■株主還元について

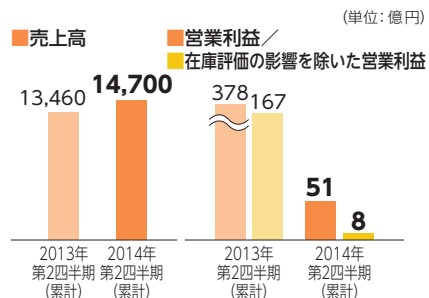
当社の株主還元方針は、「安定的かつ魅力的な配当」です。中期的視野から持続的成長に必要な投資計画とキャッシュ・フロー、財務の健全性を考慮したうえで、安定的かつ魅力的な株主還元とは何かを常に考えています。この考え方に基づき、「中期経営アクションプラン」が力強く前進している現状を踏まえ、さらに魅力的な配当を実現させるべく、今般中間配当を一株当たり19円とし、年間配当も同38円へと2013年に引き続き増配させていただく予定です。今後とも「中期経営アクションプラン」を着実に実行し、安定的かつ魅力的な配当を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 一株当たりの配当金の推移（単位：円）



石油事業



精製・販売における取り組み

4月の消費増税に加え、原油価格の高騰により石油製品価格が上昇基調にあったことから、当上半期の国内全体の需要は総じて低調に推移しました。当社は従来から取り組んできた共通ポイントサービス「Ponta (ポンタ)」、利便性の高い決済システム「Shell EasyPay」に加え、4月にはポイント還元システムを付帯したクレジットカード「シェル スターレックス カード」をリニューアルし、サービスの差別化戦略をさらに強化しました。これらの付加価値サービスによるお客様の来店促進の成果も出てきています。

7月には新ハイオクガソリン「Shell V-Power」を発売しました。より優れた商品をより多くのお客様にお届けすべく、旧商品の「シェル ピューラ」より販売地域を拡大するため、全国一斉発売に向けて配送および貯蔵設備の最適化や、魅力的な販売促進施策の準備などに取り組みました。

上半期は京浜製油所の定期修理があり、計画通り完了しています。これを除きグループ製油所は安定的に稼働を継続しました。また、製品輸出による収益機会拡大を目的に、2月に四日市製油所の精製能力を日量45,000バレル引き上げ、日量255,000バレルといたしました。シェルグループのトレーディングネットワークを活用しながら、海外市場の-margin状況に応じて該当能力を機動的に稼働させた結果、上半期の製品輸出数量は前年比で大幅に増加しました。

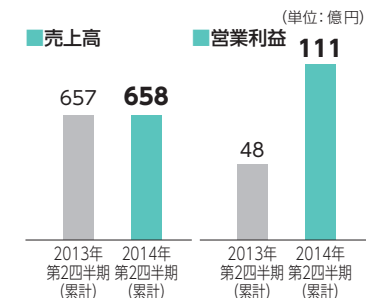
また、2013年より継続して取り組んでいる構造的コスト競争力の改善については、「2015年までに260億円以上」という目標に対し、上半期までに累計で213億円を達成し、順調に進捗しています。

将来の成長に向けた取り組み

新たな収益機会として、アジアで需要拡大が見込まれる石油化学事業の拡大に取り組んでおり、3月に四日市製油所に不均化装置を建設することを決定しました。

また、コスモ石油株式会社、住友商事株式会社、東燃ゼネラル石油株式会社および当社の4社で液化ガス事業の統合について検討を行い、8月に合意に至りました。2015年4月の統合に向けて準備を進め、統合後は事業効率の向上と収益基盤の拡大を実現します。

エネルギーソリューション事業



太陽電池事業

生産・販売における取り組み

再生可能エネルギーの固定価格買取制度を背景に太陽光発電の堅調な国内需要が続く中、ソーラーフロンティアのパネル出荷は上半期も9割以上が国内向けとなりました。将来の本格的な海外展開に向けた販売ネットワーク維持・拡大のため、海外市場にも継続して販売しています。主力工場である国富工場は小規模な定期修理を除いてフル稼働を継続し、単位当たりの生産コストも年間10%低減の目標に向けて順調に進捗しました。

将来の成長に向けた取り組み

将来の本格的な海外展開に向けた準備を進めています。CIS薄膜太陽電池の新技術を導入し海外工場のモデルと位置付ける「東北工場」の建設を進めるとともに、ニューヨーク州立大学と共同研究開発/生産を行う可能性について検討を開始しました。また厚木リサーチセンターにおいて、CIS系薄膜太陽電池における変換効率の世界最高記録20.9% (0.5cm²セル) を達成するなど、技術開発面でも成果を出しています。加えて、多様な大規模太陽光発電所開発にも参画し、付加価値の高いビジネスモデルを構築するための経験と知見の蓄積にも取り組んでいます。

電力事業

生産・販売における取り組み

天然ガス火力発電所「扇島パワーステーション」は、効率の高い操業を維持し安定した電力供給に貢献しました。京浜製油所構内に立地するジェネックスは、原料供給元である京浜製油所の定期修理期間を除いては、安定稼働を継続しました。遊休地を活用した太陽光発電所も順次稼働を開始し、事業収益に貢献し始めています。販売面では、最終顧客への小売り、他社への卸売り、電力取引所といったチャネルの多様化を図りつつ、収益の最適化を行いました。

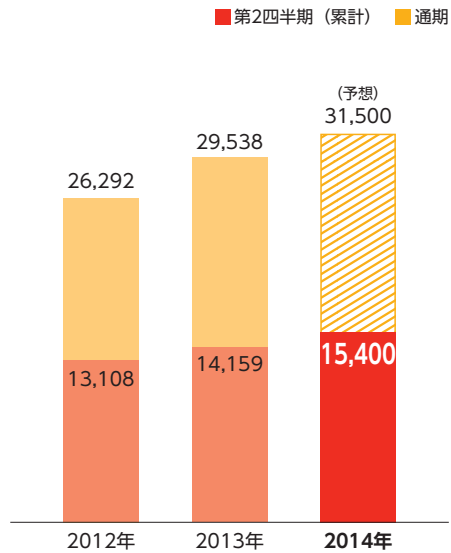
将来の成長に向けた取り組み

事業規模の拡大と発電源の多様化を目指し、現在「扇島パワーステーション」3号機に加え、閉鎖した京浜製油所扇町工場の跡地に木質ペレットを燃料とするバイオマス発電所を建設しており、いずれも計画に沿って順調に進んでいます。

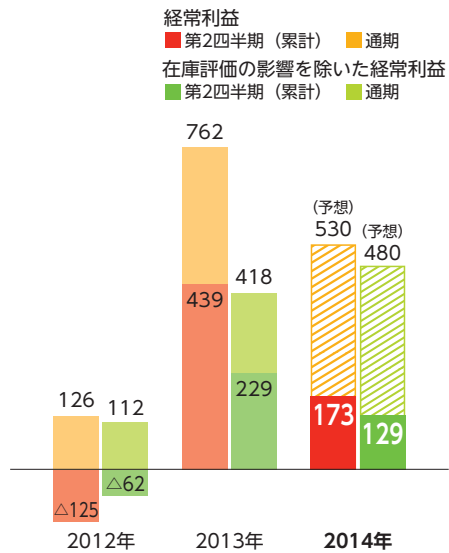
連結財務ハイライト

※金額は単位未満を切り捨てて表示しています。

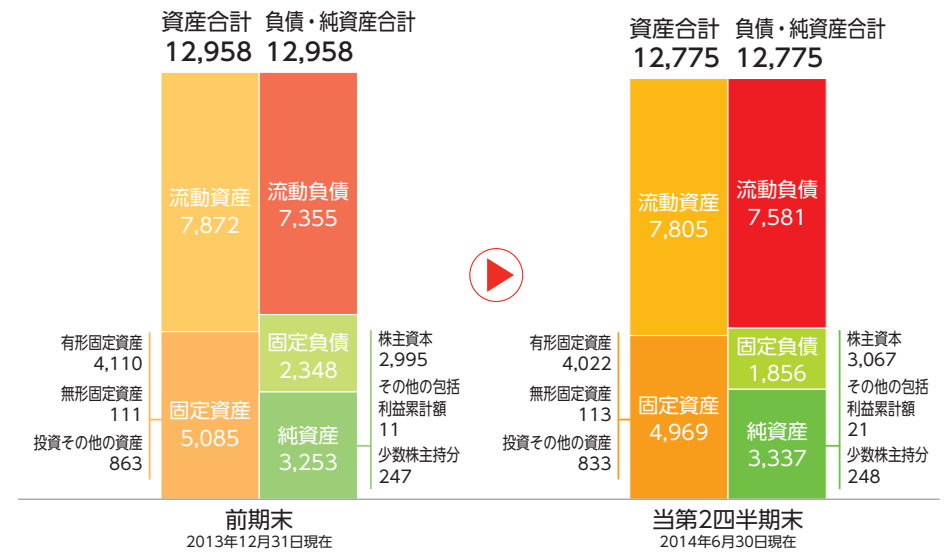
● 売上高 (単位: 億円)



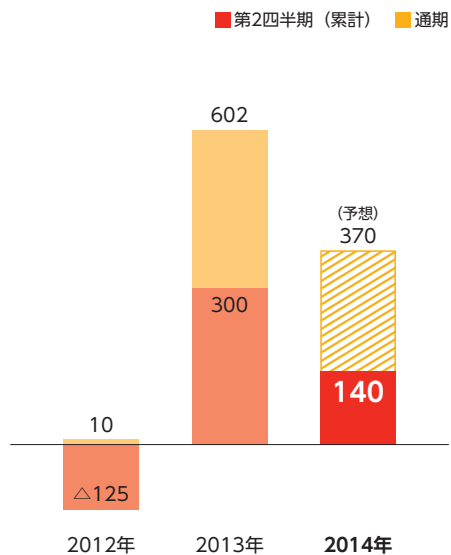
● 経常利益 (単位: 億円)



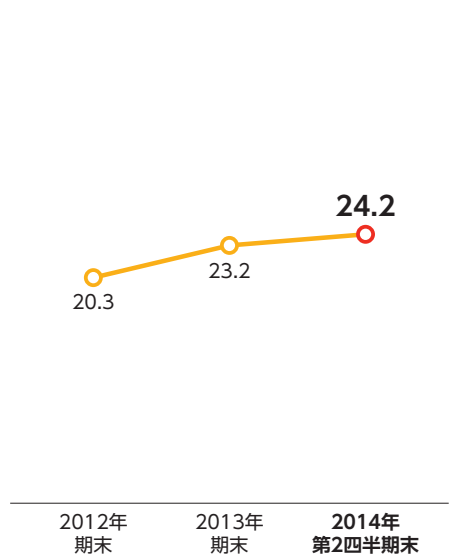
● 連結貸借対照表の概要 (単位: 億円)



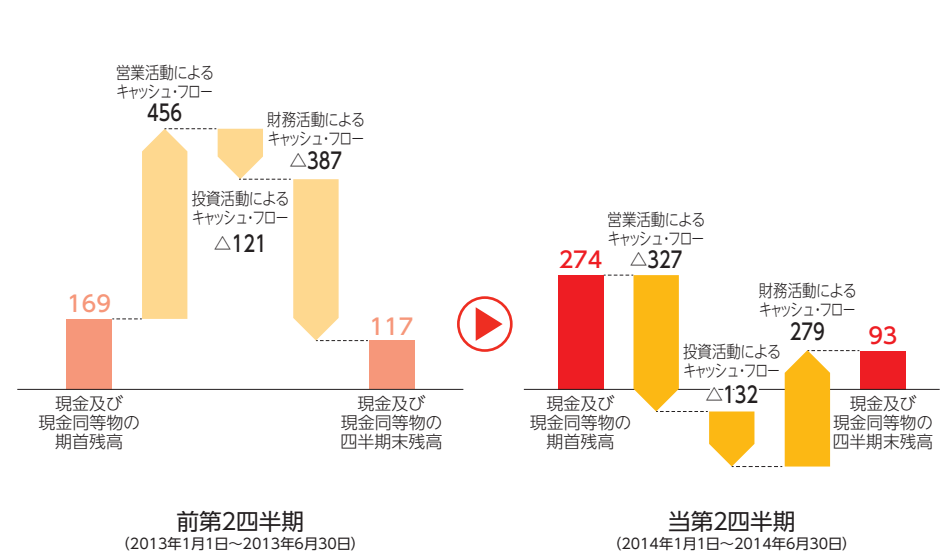
● 四半期 (当期) 純利益 (単位: 億円)



● 自己資本比率 (単位: %)



● 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 億円)



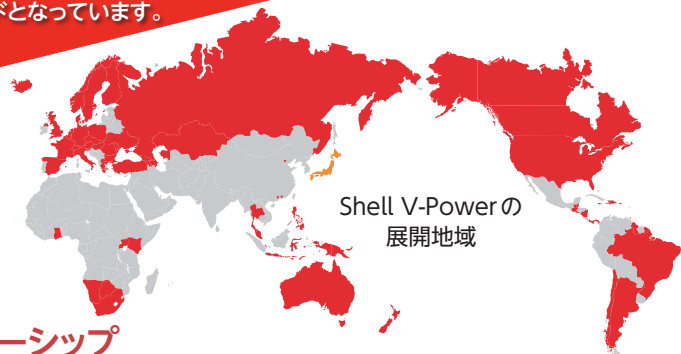
12年ぶりの新ハイオクガソリン

Shell V-Power

日本上陸!

7月1日、12年ぶりの新燃料となる「Shell V-Power」がいよいよ発売の日を迎えました。

1998年に香港で初めて発売された「Shell V-Power」は、車の性能の変化に併せて改良を続け、現在は日本を含めて世界67カ国で愛されるメガブランドとなっています。



Shell V-Powerの
展開地域

フェラーリとのパートナーシップ

シェルとフェラーリの技術提携は、60年以上前に始まりました。Shell V-PowerはF1のレース用燃料として開発され、両社のパートナーシップのもとで技術革新を遂げてきました。異なる過酷な環境下でパフォーマンスを競うF1レースにおいてエンジン能力を最大限発揮するため、Shell V-Powerレース用燃料には、燃費性能やエンジン保護性能などが求められました。公道用Shell V-Powerは、この技術が多分に盛り込まれた高性能なハイオクガソリンです。



TECHNICAL PARTNER
SCUDERIA FERRARI

グリーン&プロテクトテクノロジー

シェル独自の技術で、 エンジン内部を洗浄しながら保護

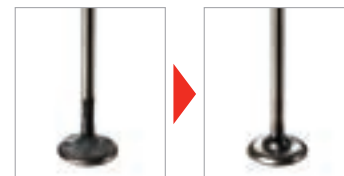
エンジン内部では、高温高圧の燃焼が繰り返されています。レギュラーガソリンなど、清浄剤の入っていないガソリンで走り続けるとエンジン内の吸気バルブにカーボンなどの汚れが堆積していき、ガソリンや空気の流れの障害となります。その結果、エンジン性能の低下が起こる可能性があります。

Shell V-Powerは、シェル独自のグリーン&プロテクトテクノロジーにより、走るほどに吸気バルブの付着物を取り除き、重要なエンジンパーツを新たな汚れから保護します。これによってエンジン本来の性能を引き出すことができます。

まさに走りへの情熱を呼び覚ますための新しいハイオクガソリンです。

吸気バルブの汚れによる影響

- 出力の低下
- 加速性能の低下
- レスポンスの低下
- 低温時の始動性低下



レギュラーガソリンで
8,000km走行した
後の吸気バルブ

その後、Shell V-Power
でさらに8,000km走
行した後の吸気バルブ

Shell V-Power 日本での展開

2014年7月 一部地域を除く 40都道府県で販売開始

展開SS数：約**2,600SS**

取扱SSシェア：**76.1%**

ハイオク数量シェア：**93.0%**

※SS総数 3,418SS(2014年4月末現在)

※展開都道府県の中でも、一部サービスステーション(SS)では販売していません。



Shell V-Powerを
是非お試しください!

Shell V-Power
展開地域

石油事業


昭和四日市石油に不均化装置の設置を決定

国内の燃料油需要が減少傾向にある中で、当社石油化学の主力製品であるミックスキシレンは、ポリエステル繊維やペットボトルの原料としてアジアでの需要が堅調に伸びています。当社では、「中期経営アクションプラン」において、石油事業の収益力強化策の1つとして「石油化学事業の拡大」を掲げています。

2014年3月、この一環として、既存設備を有効活用して昭和四日市石油(株)四日市製油所に不均化装置を建設することを決定しました。これによって当社グループのミックスキシレン生産能力は30%増加し、アジア地域への供給を強化していきます。付加価値の高い石油化学製品の増産に加え、初期投資を抑えたコスト優位性のある装置により、四日市製油所の国際競争力を強化していきます。



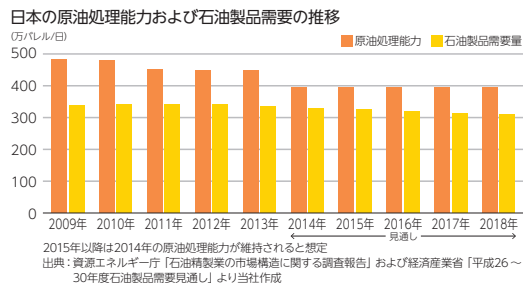
四日市製油所

国内石油製品の需要と供給

エネルギーの有効利用促進を目的とする「高度化法*」に対応し、石油元売各社は2014年3月末までに精製能力の削減を進めました。この結果、現時点では過剰な精製能力は過去に比べて大幅に縮減している状態にあると言えます。

一方、経済産業省の国内燃料油需要見通しにおいては、2018年度には2013年度比で7.8%減少するとされており、再度精製能力過剰が拡大することが見込まれます。このような環境下、経済産業省は日本のエネルギー供給を支える重要産業として石油精製業界を位置付け、競争力強化を通じた収益基盤の安定化を極めて重要な課題と掲げました。同省は「高度化法」および「産業競争力強化法」を通じて精製能力削減や企業間連携を促進することで、石油業界の競争力強化を後押ししています。

当社はこのような動きを業界全体を良い方向へ導くものとして捉えており、導入される諸制度を適切に活用することで、さらに自社の競争力強化につなげていく考えです。



*高度化法＝エネルギー供給構造高度化法：電気やガス、石油事業者といったエネルギー供給事業者に対して、太陽光、風力などの再生可能エネルギー源、原子力などの非化石エネルギー源の利用や化石エネルギー原料の有効な利用を促進するために必要な措置を講じる法律。石油会社に対しては、製油所の国際競争力を高めるため、2014年3月末を期限として精製設備の高度化(常圧蒸留装置の削減または重質油分解装置の新設・増設)義務を課した。

エネルギーソリューション事業 ー電力事業ー


「新潟第二メガソーラー」運転開始

2010年、当社の新潟製油所跡地を有効活用し、商業用の大規模太陽光発電所(メガソーラー)として日本で初めてとなる「新潟雪国型メガソーラー」(発電能力約1メガワット(MW))の運転を開始しました。

2014年3月、その隣地に、発電能力約7MWの「新潟第二メガソーラー」が完成しました。「新潟雪国型メガソーラー」で検証した積雪に対応できる工法やパネルの設置角度等の工夫に加え、当社の戦略的パートナーであるドイツのメガソーラー施工大手ベレクトリック社の施工技術も活用し、低コスト・短工期での建設を実現しました。発電した電力は、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」に基づき全量を東北電力株式会社に売電しています。



CSDソーラー、太陽光発電所営業運転開始

2013年、コスモ石油株式会社および株式会社日本政策投資銀行とともにCSDソーラー合同会社を設立し、コスモ石油と当社の持つ石油基地や油槽所の跡地等に、ソーラーフロンティア製の太陽電池パネルを使用した太陽光発電所を建設しています。

2014年6月に最初の発電所である「CSDソーラー日立太陽光発電所」が、また7月には「CSDソーラー大分太陽光発電所」および「CSDソーラー徳島太陽光発電所」が発電を開始し、発電能力は合計約2MWとなりました。全国8カ所、合計約24MWの発電所完成に向け、残りの5カ所についても順調に計画を進めています。



CSDソーラー徳島太陽光発電所


「ユーエスパワー発電所」営業運転開始

2014年7月、宇部興産株式会社と共同出資するユーエスパワー株式会社が、「ユーエスパワー発電所」(発電能力約21.3MW)の営業運転を開始しました。同発電所は、宇部興産が所有する東京ドーム約6個分の遊休地を利用し、ソーラーフロンティア製のCIS薄膜太陽電池を使用し建設されました。発電した電力は、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」に基づき全量を中国電力株式会社へ売電しています。



エネルギーソリューション事業 —太陽電池事業—

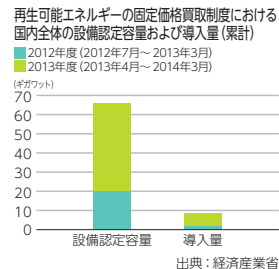
固定価格買取制度の設備認定量が65.7GWに

経済産業省の発表によると、2014年3月末時点の太陽光発電設備認定量は、制度が導入された2012年7月からの累計で65.7ギガワット（GW）となりました。同買取制度のもとで既に約9GWが運転開始していることから、残り相当数が潜在需要として見込まれ、今後も国内需要は高いレベルで推移すると考えられます。

これまでに設備認定された容量の大半は、発電能力が10kW以上の案件であり、1,000kWを超える大規模な発電所も多く含まれています。このことから、今後数年間は、大型の案件を中心とした需要構成となることが見込まれますが、その後は、住宅用も含めた比較的小規模な発電システムが需要の中心となっていくと予想されています。

ソーラーフロンティアは、このように旺盛な国内需要に対して十分なパネル供給を果たしていくとともに、将来見込まれる需要構成の変化に対応し、大規模発電所から中小規模の発電所、家庭用発電設備まで幅広く顧客ニーズに対応できる製品・サービスの提供を強化してまいります。

* 設備認定を取得している案件でも、建設条件や電力会社の送電線接続許可の関係から、最終的には建設されないケースもあり得ます。



CIS薄膜太陽電池を次世代ソーラー住宅へ

ソーラーフロンティアでは、中・長期的に安定した需要が見込まれる住宅向けの販売を強化しており、住宅メーカーとの協業にも取り組んでいます。

現在、セキスイハイムのゼロエネルギー住宅「スマートパワーステーション」シリーズ、トヨタホームのスマートハウスNEW「SINCÉ Cada（シンセ・カーダ）」にソーラーフロンティアのCIS薄膜太陽電池が搭載されています。

一般的には、パネルを平らに設置すると表面に汚れがたまり発電性能が低下すると言われていますが、CIS薄膜太陽電池は汚れなどによってパネルの一部に影ができてでも発電性能が低下しにくい特性があります。この特性が住宅メーカーにも認められ、陸屋根全体にパネルを平らに設置することで大容量のパネル搭載が可能になるとして、ソーラーフロンティア製品が採用されました。



セキスイハイム
「スマートパワーステーション」

変換効率の世界最高記録20.9%を達成

ソーラーフロンティアは、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との共同研究を通して、CIS系薄膜太陽電池のセル（約0.5cm²）において、エネルギー変換効率20.9%となる世界記録を達成しました。ソーラーフロンティアでは、一般的に研究開発で使用される小さなセルではなく、より商業生産のサイズに近い30cm角のサブモジュールを用いて研究開発を行っており、今回の成果もこのサブモジュールから取り出したセルにおける成果です。生産ラインへの早期の適用を目指すとともに、さらなる変換効率の向上に取り組めます。

ニューヨーク州立大学と、共同研究開発／生産の可能性検討について基本合意

ソーラーフロンティアは、米国ニューヨーク州立大学ナノスケール理工学カレッジと、CIS薄膜太陽電池モジュールの共同研究開発／生産を行う可能性について、技術面および経済面で予備調査を実施することを合意しました。

現在は堅調な需要を背景に日本国内への販売を中心としていますが、今後世界需要の拡大が見込まれる中で、将来的には世界市場で本格展開し、グローバルリーダーとなることを目標としています。海外に生産拠点を確立することはこの目標に向けた中核テーマの一つであり、今回の基本合意はその計画実現への布石となるものです。

「未来の農村」へのエネルギー供給に貢献

新潟市の都市部に近接する「亀田郷土地改良区」は、農業地域の総合的な環境整備と有効活用を目指す「未来の農村」づくりに取り組んでいます。同区内では太陽光発電事業が実施されており、発電された電力を東北電力株式会社に売電し、区内の揚水・排水施設などの管理費負担を軽減することで持続性の高い農村環境整備に貢献しています。特に農業用排水路法面（のりめん）に設置した大規模な発電設備は、雑草抑制と法面維持の両立等、発電以外のメリットも期待されます。本事業にソーラーフロンティアのCIS薄膜太陽電池が採用されており、「未来の農村」の太陽光発電事業をサポートしています。



法面（のりめん）に設置された発電施設

■ グループ経営執行会議

2014年3月、グループCEO、グループCFO、石油事業COOおよびエネルギーソリューション事業COOの4名を構成員とする「グループ経営執行会議」が発足しました。

従来は事業部ごとに「経営執行会議」を運営していましたが、業務執行部門の責任と権限を明確化し、意思決定のスピード化を図るため、少数で意思決定を行う体制としました。

一方、経営の監督機能を高めるために取締役会における社外取締役を6名とし、ガバナンス体制を強化しています。



執行役員
石油事業COO
亀岡 剛

代表取締役会長
グループCEO
香藤 繁常

代表取締役
グループCFO
ダグラス・ウッド

執行役員
エネルギーソリューション事業COO
玉井 裕人

■ 役員状況 (2014年8月31日現在)

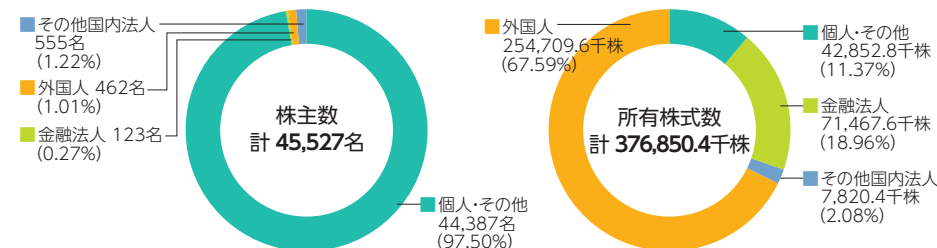
代表取締役会長 グループCEO	香藤 繁常
代表取締役 グループCFO	ダグラス・ウッド
取締役	増田 幸央
取締役	中村 高
取締役	武田 稔
取締役	チュウ・ナン・ヨン
取締役	アハメド・エム・アルクネイニ
取締役	ナビル・エー・アルヌエイム
常勤監査役	山田 清孝
常勤監査役	濱元 節
監査役	宮崎 緑
監査役	山岸 憲司

執行役員 石油事業COO	亀岡 剛
執行役員 エネルギーソリューション事業COO	玉井 裕人
常務執行役員	伊藤 智明
常務執行役員	井上 由理
常務執行役員	新留 加津昭
常務執行役員	ブルックス・ヘリング
執行役員	小林 正幸
執行役員	吉岡 勉
執行役員	森下 健一
執行役員	鈴木 達也
執行役員	阿部 真
執行役員	渡辺 宏
執行役員	飯田 聡

(注) 1. 取締役増田幸央、中村高、武田稔、チュウ・ナン・ヨン、アハメド・エム・アルクネイニおよびナビル・エー・アルヌエイムは、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2. 監査役宮崎緑および山岸憲司は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

■ 所有者別の分布 (2014年6月30日現在)



■ 大株主(上位10名) (2014年6月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ザ・シェル・ペトロリウム・カンパニー・リミテッド	125,261.2	33.24
アラムコ・オーバーシーズ・カンパニー・ビー・ヴィ	56,380.0	14.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,418.2	4.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,952.1	3.17
ザ・アングロサクソン・ペトロリウム・カンパニー・リミテッド	6,784.0	1.80
BNPパリバ証券株式会社	3,872.7	1.03
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,545.8	0.94
ステートストリートバンク ウェスト ペンション ファンド クライアント エグゼンプト	2,977.9	0.79
ドイツ証券株式会社	2,644.4	0.70
三菱UFJモルガンスタンレー証券株式会社	2,620.2	0.70

■ コーポレートレポート、IRサイトのご案内

当社の持続的な成長に向けた経営や活動をステークホルダーの皆様へ包括的にご報告するため、統合報告書「コーポレートレポート」を発行しています。2014年版では、経営戦略、事業活動、またそれを支える経営資源やコーポレートガバナンスについて、築いてきた歴史(Past)、現状の競争力・経営基盤(Present)、将来に向けて目指す姿(Future)というストーリー構成に沿ってお伝えしています。また、CSR情報の詳細を掲載した「CSR Book 2014」もWEBサイト上にて公開しています。

WEBサイト上の「株主・投資家情報」ページでは、各種開示資料をはじめ株主・投資家の皆様への情報提供を行っています。幅広い層の投資家の皆様に分かりやすく情報をお伝えするため、内容の充実化を図っています。



コーポレートレポート2014

当社ホームページ「株主・投資家情報」

<http://www.showa-shell.co.jp/ir/index.html>